

都道府県番号	31
都道府県名	鳥取県

(レ)

## 学校名及び規模

岸本町立岸本中学校							
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	3	3	1	9		
生徒数	80	113	98	1	292	20	

## 実践研究の概要

1. 研究主題 「確かな学力の向上を目指して」  
 ~ 基礎・基本の定着と自ら学び自ら考える力の育成 ~

### 2. 主題設定の理由

21世紀は変化の激しい社会となることが予想される。そのような社会では、一度習得した知識や技能のみで自己実現したりそれを維持することは困難である。必然的に生涯を通じて学んでいく姿勢が重要になってくる。そのため、これからの社会においては、自ら考え、主体的に判断し、表現できる資質や能力の育成が強く求められている。

本校では、学校教育目標「確かな学力をつけ、進んで学ぶ生徒の育成」を具現化するため、平成7年度より「個に応じ、個を生かす授業」を研究主題として、数学科と英語科を中心にしてTTの研究に取り組んできた。平成11年度より、その研究の一環として数学科において、基礎・基本の徹底と学習意欲の向上を図るため、習熟度に応じた指導や少人数指導を導入し、実践研究に取り組んできた。それによって、受け身であった授業姿勢に変化が現れ、積極的な学習態度が見られるようになり、生徒の学習意欲は徐々に向上してきた。しかし、「基礎・基本を確実に定着させること」、「自ら課題を見つけ、自らその課題を解決しようとする姿勢を育てること」においては、まだ多くの課題が残されてきた。

このように「確かな学力の向上」は、時代の要請であるとともに、まさに本校が直面している克服すべき課題そのものであると考え、本研究主題を設定した。

なお、研究主題に迫るためには、指導体制の一層の工夫も必要ではあるが、これからは授業の質的改善と教材開発に重点を置くことで、教師の指導力の向上を図っていかねばならないと考えている。また、研究をより確かなものにしていくための土台作りとして、家庭学習も含めた学びの習慣化や、学びの機会の充実を図っていくこと、さらには校区の小学校との連携をより深めていくことが必要であるとと考えている。

## ．実践研究の内容について

### ( ) 研究体制の工夫

本校では、学力向上を学校全体の研究とするため、全教科で研究実践に取り組もうと考えている。教科の専門性からして、教科部会での研究が中心にならなければならないのだが、教科によっては一人や二人で部会構成することになり、部会が十分に機能しないことが考えられる。そこで、教科部会毎に校区の小学校と連携していくことで、部会を活性化し研究に深まりを持たせたいと考えている。なお、算数・数学科では少人数指導体制の工夫という共通の課題があり、小中連携のモデル教科として初年度の先行的な取り組みを実践してきた。

### ( ) 実践研究の内容

- 1 習熟度に応じた指導や少人数指導、繰り返し指導や補充学習等の導入等、きめ細かな指導を充実することで基礎・基本を徹底する。
- 2 評価規準を生かした授業づくりを目指すとともに、評価基準や評価の方法をより運用しやすいものへと工夫改善する。さらに評価や諸検査を生かして授業改善や個別指導に役立てるシステムを確立する。
- 3 数学的活動を取り入れることで、学ぶ楽しさを体験させるとともに自ら学び自ら考える力を育てる。
- 4 選択教科としての数学を充実させ、数学の学ぶ楽しさを体験する中で、進んで数学を活用しようとする態度を育てる。
- 5 小学校との連携を深め、相互に研究授業を実施し、算数・数学の指導体制の改善と指導力向上に向けた研究協議を推進する。また、その一環として、小学校の算数指導で、小学校と中学校の教員によるTTを実施する。

### ( ) 成果と課題

初年度は数学科の先行的な取り組みとして、次年度から全教科で研究主題に迫る取り組みを始めようと計画している。次年度以降の参考とするため、数学科で研究主題に迫る方法に幅広く取り組んだ。そのため、それぞれはあまり深まりをもたせることができなかったというのが正直な感想である。それでも、習熟度に応じた少人数指導と小中連携については、前年度からの実践の積み上げが生かされて、比較的良い成果が上げられたと考えている。

#### (成果)

##### 指導体制の工夫

習熟度に応じた少人数指導体制を導入することで、学習意欲、学習の理解度、授業への好感度が一段と高まったことが大きな成果としてあげられる。このことは、数学コース別学習アンケートにはっきりと表れていた。また、授業への取り

組みが積極的になり挙手発言等が増えたことや課題の提出率が高くなったことなどでも確認できた。

なお、この指導体制の導入が確かな学力の向上にどれほどの効果をもたらしたかについては、年度末に行う観点別到達度学力検査（CRT）等の結果を見て総合的に判断したいと考えている。

#### 小中連携の推進

算数・数学の授業研究会等を通して連携を深め、指導方法や指導体制等について活発に意見交換をすることができた。また、2月末に行う6年生の算数指導で小中の教師によるTTを計画しているが、計画、指導、評価の一連の過程で互いの力量を高めていけるものと考えている。これらの取り組みは、学力向上への教師の意識改革を促進し、授業改善や指導力の向上にとっても有効に機能している。

#### （課題）

##### 指導に生かす評価の工夫

教科部会の活動を週に2時間確保し、評価規準を生かした授業づくりについて検討することで授業改善を着実に進行させることができた。しかし、評価の方法については、少人数を生かした観察法に依存しがちで、他の効果的な方法について十分な実践ができなかった。また、放課後の個別指導を充実しようと思いついたが、様々な行事等で思ったほど時間を確保することができなかった。評価の方法の工夫や個別指導の工夫が、次年度の大きな課題である。

##### 数学的な活動の導入

数学的な活動を取り入れた授業実践については、教科部会の重点課題であり、いくつかの教材を開発し実践することができた。この取り組みによって、日々の授業の中に数学的な活動を生かそうとする教師の意識が高まってきた。しかし、基礎基本の定着に時間がかかり遅れがちな授業の中で、数学的な活動を十分に生かすことができなかったというのが実態である。選択教科としての数学も含めて効率的な導入を検討していくことが次年度の課題である。

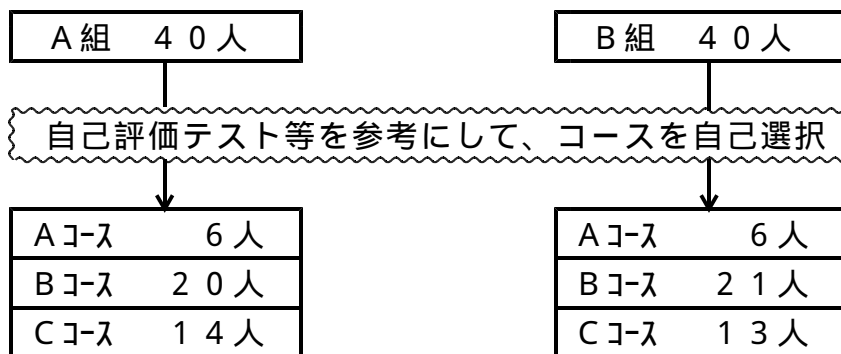
##### 選択教科としての数学の充実

選択教科としての数学については、数学を学ぶ楽しさや数学の有用性を味わうことができるよう工夫し、生徒も概ね意欲的に取り組んでいた。しかし、選択教科の開設数が少なく、学習集団の人数が多いとか、学習集団の学習意欲の差が大きい等の問題が生じた。そのため、内容的に深まりのある学習が展開しづらく、自ら学び自ら考える力を十分に伸ばしきれなかった。次年度は、選択幅を拡大し生徒の興味関心や適性に応じて、教科の選択ができるよう工夫していく必要がある。

#### （ ）成果の普及策

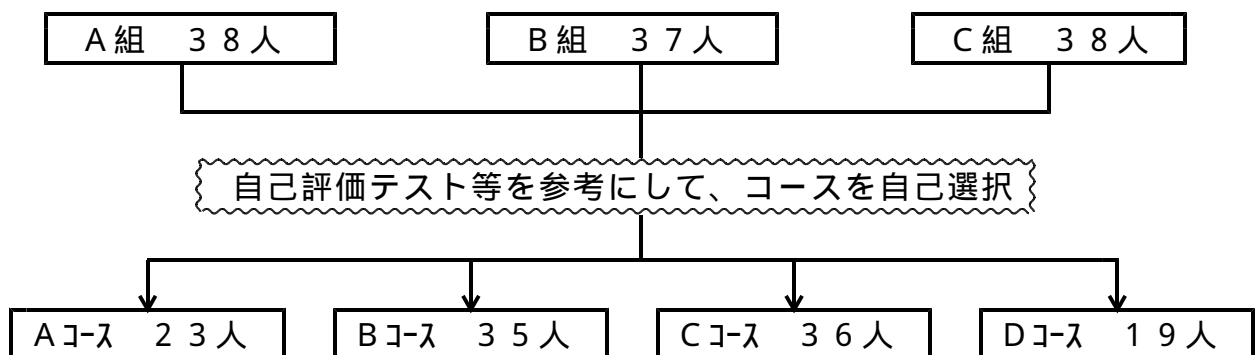
今年度は、数学の研究授業を行う際に、校区の2小学校や郡内の6中学校に案内を出し、多数参加をして頂くことができた。研究成果を広める良い機会となったと考えている。次年度は、ホームページを立ち上げ、広範囲に情報発信しようと考えており、現在準備を進めているところである。

### 1 学年数学 習熟度に応じた少人数指導



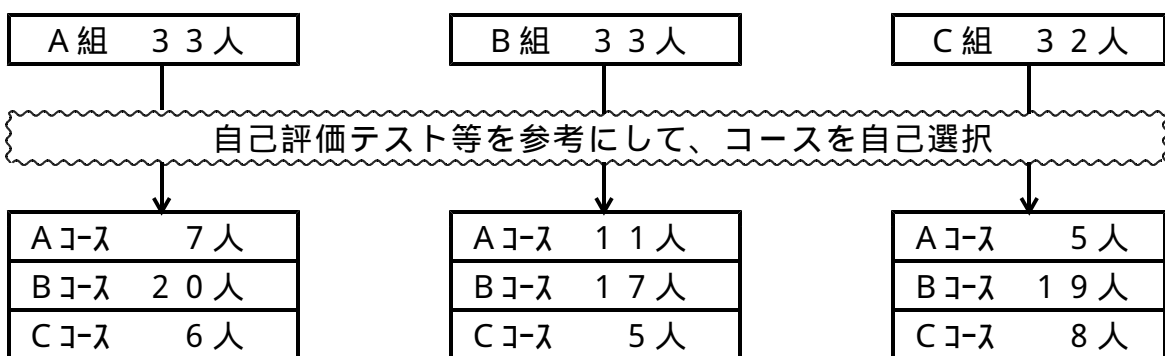
習熟度は、Aコース、Bコース、Cコースの順に高くなる

### 2 学年数学 習熟度に応じた指導



習熟度は、Aコース、Bコース、Cコース、Dコースの順に高くなる

### 3 学年数学 習熟度に応じた少人数指導



習熟度は、Aコース、Bコース、Cコースの順に高くなる

## 数学コース別学習アンケート結果

14年7月実施

1, コース別学習で、やる気をもって授業に取り組めましたか。(学習意欲)

	1年	2年	3年
ア、やる気をもって取り組めた。	51.9%	18.2%	40.7%
イ、だいたいやる気をもって取り組めた。	40.5%	54.5%	56.0%
ウ、あまりやる気をもって取り組めなかった。	5.1%	22.7%	3.3%
エ、やる気をもって取り組めなかった。	2.5%	4.5%	0%

2, コース別学習で、学習内容は理解できましたか。(理解度)

	1年	2年	3年
ア、よくわかった。	57.0%	21.8%	39.6%
イ、だいたいわかった。	43.0%	60.9%	59.3%
ウ、あまりわからなかった。	0%	12.7%	1.1%
エ、ほとんどわからなかった。	0%	4.5%	0%

3, コース別学習についてどう思っていますか。(好感度)

	1年	2年	3年
ア、満足している。	46.8%	30.9%	50.5%
イ、だいたい満足している。	44.3%	54.5%	46.2%
ウ、やや不満である。	7.6%	9.1%	2.2%
エ、不満である。	1.3%	5.5%	1.1%

(考察)

このアンケート結果から判断して、各学年とも多少の差はあるが、コース別学習を概ね肯定的に受け止めているとことが分かる。しかし、2学年では他学年に比較して学習意欲、理解度、好感度ともに低い結果となっている。これは、1学年と3学年では、少人数指導できめ細かい指導ができていないのに対して、2学年では少人数指導になっていないために、きめ細かい指導が十分にできていないことが大きな要因と思われる。なお、前年度も2学年で同じ指導体制を実施しているが、その時の好感度も今年度の2学年のアンケート結果とほぼ同じ結果になっている。

(資料3) 14年度 算数・数学における小中連携

三校(岸本中学校、岸本小学校、八郷小学校)による算数・数学についての共同研究

9月18日(水)	岸本小学校	算数科研究授業および事後研究会
10月2日(水)	八郷小学校	算数科研究授業および事後研究会
*10月15日(火)	岸本小学校	算数科研究授業および事後研究会
*10月25日(金)	岸本中学校	数学科研究授業および事後研究会
10月30日(水)	八郷小学校	算数科研究授業および事後研究会
11月6日(水)	八郷小学校	算数科研究授業および事後研究会
11月8日(金)	岸本小学校	算数科研究授業および事後研究会
*11月25日(月)	岸本中学校	数学科研究授業および事後研究会
*12月6日(金)	岸本小学校	算数科研究授業および事後研究会

\*印は、島根大学教育学部(数学教育学)教授の伊藤俊彦先生を講師として招き、指導助言を受けた授業研究会であることを表している。

小学校の算数指導で、小学校と中学校の教員によるTTの実施

わかりやすい授業、楽しさを味わえる授業を目指して、TTによる授業研究を行う。3学期に6年生を対象に各学級2時間程度実施する。計画、授業、評価の一連の過程を通して、お互いの指導力の向上を図る。